

サーバス東海北陸支部 会報 2月号

発行日: 2025年2月吉日

東海北陸支部長: TM

星とたんぽぽ

青いお空の底ふかく、
海の小石のそのように、
夜がくるまで沈んでる、
昼のお星は眼にみえぬ。

見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬものでもあるんだよ。

(金子みすゞの詩)

皆さん、お変わりありませんか？今年もよろしく
お願いします。

右の写真の華やかで燃える炎のような、とても大
きい花が蔓からぶら下がって咲いていました。

11月末に朝刊に紹介されていました。

自分の目で見たいと、即、電車で見に行きました。

今回は、長いサーバス歴をお持ちのお二人に寄稿をお願いしました。ご快諾下さり感謝
です。どうぞ、お楽しみください。例会の参加もしてちょうよ



ムクナ・ペネッティ

(東山動植物園にて)

本号の内容

- | | |
|------------------------------|------|
| ①私のサーバス入会の理由 | MAさん |
| ②NFさんの旅アルバムから | NFさん |
| ③私のサーバス体験 | ATさん |
| ④その他 (サーバス国内活動と日本サーバスのアクセス法) | |

① 私のサーバス入会の理由

MA

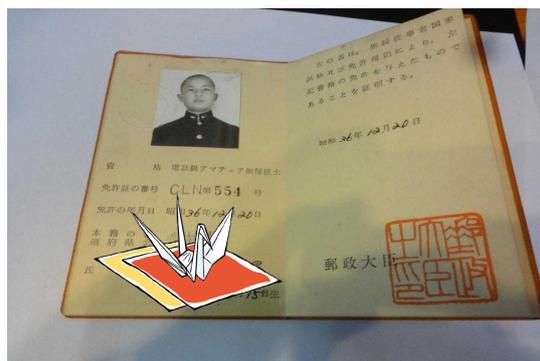
私は中学 2 年生の頃に、旅とアウトドア活動に開眼しました。当時の担任 S 先生がアウトドア派で、私をキャンプ指導者講習会に派遣してくださいました。

その夏休みの自主活動で、仲間を募ってユースホステルに入会し、楠木正成と千早城をテーマに、富田林市のユースホステルを拠点にした調査活動を行い、旅のとりこになりました。デベソ開眼です。

また、S 先生は理科の教科担任でもあったので、アマチュア無線も紹介してくださいました。電話級アマチュア無線技師の資格をとって、受信機はトリオの市販品 9 R - 59 を買いましたが、送信機は自作し、(この時に 600 V のトランス端子に触って感電し、痛かった記憶があります) アンテナも 20 m のものを自作し、実際に電波をとばして 2 ~ 3 局との交信をしましたが、高校受験のために中断したまま今に至っています。

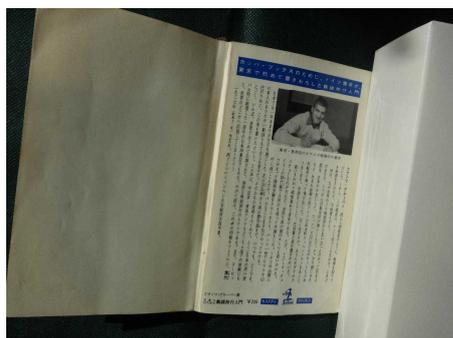
当時の免許証を載せておきます。 ☞

高校入学後、一年生の夏休み後半 2 週間を使って、中学生時代の親友 M 君と、北海道均一周遊券を目一杯使い、宿泊は夜行列車とユースホステル利用の貧乏旅行をしました。



引き金となったのは、フランツ・グルーバー著「日本人のための無銭旅行入門」という、1 冊のカップブックスでした。再読したくて、まずは国会図書館で検索したら見つかりましたがこのために上京はできません。現物を手にしようと今度は愛知県立図書館で検索したら見つかったので、尾張旭市立図書館経由で借り出し、再読しましたが、「たった 2 万円で世界をめぐる法」の副題を信じた高校生当時のあつい思いには至れませんでした。

下の写真は本のカバー部分です。



その後も国内貧乏旅行を続け、1浪後に入学した大学生時代、蟻川謙著「世界旅行あなたの番」、小田実著「何でも見てやろう」などをむさぼり読むうちにたどり着いたのが、サーバス友の会（その後日本サーバスに改称）。連絡先の故天野益男会長にコンタクトして即入会しました。

大学2年の時、休学して世界旅行をしたいと、当時の学部主任S教授に打ち明けたところ、「君の立場で外遊しても、つきあえる相手は限られるだろうから、もっと研鑽を積んでからにしてはどうか」と言われて、世界旅行を断念したまま今に至っています。

サーバス活動のほうは、もっぱら受け入れ専門でしたが、娘が保育園児の頃、家族3人でドイツ旅行をして以来、数回のサーバス旅行を体験しました。3人の受け入れ先を探すのがまず始めの関門だったことを覚えています。

その後、娘は大学生となりドイツ一人旅を実行すべく、関西支部に入会してサーバス（ドイツ）一人旅をしましたが、彼女のサーバス体験はこれっきりとなってしまうました、残念です。
尚、その旅行記は50周年記念誌（近畿支部）に載っています。興味を持たれた方はそちらをお読みください。

ダラダラ書きました。コロナ禍以降、私は現実のサーバス活動は休眠状態ですが、ZOOMミーティングだけは継続しています。よろしければ、そちらでお会いしましょう。 完

② NFさん・旅のアルバムより



マルタ共和国にて



中国七彩丹霞（しちさいたんか）

NFさんも、ご多分に漏れず、自分の目で絶景を見てみたい、感じてみたい方です。忘れてしまいがらいたくさんの写真の中から3枚をお借りました。

イスラエルの写真を見つけた際は、あの時、行っというて良かったと思われたそうです。世界が平和でないと、行きたいところに旅できませんものね！



③ 私のサーバス体験

A T

1 懐かしい受け入れ



サーバスに入会して二番目に我が家を訪れたのはオランダ人カップルでした。

写真は妻と膝に抱かれている当時 6 ヶ月（現在 48 歳になっています）の長男とオランダ人カップルです。

私の記憶ですと、彼らはシベリア鉄道で一週間以上かけてモスクワ経由にてウラジオストクに着き、そこから船で日本に来たと記憶しています（1977.9月）。当時はスウェーデン人とか何組かがシベリア経由で訪日されたように思います。

航空券が高くて旅費を節約していたのか、それともヨーロッパからは、シベリア経由がブームだったのでしょうか？ 実際の事情はよく覚えていません。

彼らはまだ結婚していませんでした。仕事を休んで長期間旅行する二人にびっくりし、毎日あくせく働くだけの自分と比較して、余裕を感じられる彼らの生き方がとてもうらやましく思いました。-----あれから約 50 年経た日本、少しは追いついているのでしょうか。

翌日彼らに行きたい場所を尋ねると、自然を感じられるところがよいとのことでしたので、木曽川河川敷にお弁当（おにぎり）を持って自転車で出かけました。

彼らは、広い河川敷と豊かな自然に感動し、とても満足したようでした。また、私自身も彼らを通して、身近な自然の美しさに気付かされました。

それからの私は、時々、木曽川の堤防を岐阜までサイクリングするようになりました。

2 その後の活動.

私のサーバス活動はぼちぼちで、50年近くで12～13件の受け入れです。

特に思い出深いことと言えば、JR名古屋駅に待合室があったころ、待合室で英語を暗記しながら、今か今かとトラベラーを待っていた事でしょうか。(パソコン、ケータイなかったです。)

受け入れた人達は皆良い人ばかりで、トラブルなど一度も無く家族のとても良い思い出となっています。

私は定年退職後(60歳) JICA ボランティアに参加しました。任国コロンビアでの2年間はとても良い経験になりました。これもサーバスに入会して外国の人達に興味を持ち、朝のラジオ講座で英語の勉強を続けてきたおかげだと思えます。(今も平日毎朝9時半からの現代英語講座を楽しみにしています)これには、サーバスとサーバスの仲間にとっても感謝しています。

JICA ボランティアは70歳以下ならだれでも参加出来ます、英語が出来れば参加にとっても有利です。いい経験になりますのでぜひ一考してみてください。

おわり

④その他

最後まで、読んで下さり有り難うございました。

国外の方だけでなく、同じ国に住むメンバーとの交流活動も行っています。これが、でら～楽しいがやあ。

サーバスについての詳しいことは、
日本サーバスのホームページをお願いします。



では、未来のサーバスメンバの貴方にお会い出来ますよに！